第22回日本統合医療学会学術大会
「大自然と響き合うインテグラティブ・ヘルス
―慈しみと現代・伝統・自然医療のシナジー―」
2018年10月7日（日）9:00-9:50　札幌市立大学桑園キャンパス

大会長講演
「ケアリングと癒しの統合医療看護の探究」

猪股千代子
札幌市立大学看護学部教授

内　容

- ケアリングと癒しの統合医療看護の背景
- 実践・教育・研究からの学び
- 全人的統合医療看護の特徴
- 地域包括ケアに全人的統合医療の活用
- 新たな看護人材育成の提案

ケアリングと癒しの
統合医療看護 探求の背景

統合医療との出会い

臨床看護　四半世紀をふりかえり

- 心臓病・心臓移植待機の人工心臓装着患者さんへの心のケア
- 不妊症治療をしている女性患者さんへの全人的ケア
- 肺移植を待ちながら様態が悪化していく患者さんへの希望をもてるケア
- 骨肉腫で足切断術後、化学療法中の患者さんへの自然治癒力を高めるケア

- 現場はまだまだ精神的ケアが不十分

看護教育者としての志

- こころのケア・癒しのケアを模索
- 統合医療との出会い（2004年）
- 統合医療実践の場の出会い（2008年）

統合医療

アンドリュー・ワイル

- ライフスタイルのすべての側面をふくむ人間の全体（身体性・精神性・霊性）を対象とする治癒（いやし）志向の医療
- 治療者と患者の人間関係を重視し、現代医学と代替医療におけるすべての適切な治療法を用いる
- 養生の医療・生命力を高める医療：生活習慣に重点をおき、健康増進のための診療、科学的進歩を取り入れた医療を提供すると同時に疾病管理から、ケアの方向を予防やウエルネスに向けたものへ

補完・代替医療
CAM（complementary alternative medicine)

- 現代西洋医学を補完しそれに代わり得る治療法の総称
- 共通しているのは独自の癒しの技
- 基本理念：患者中心・全人的アプローチ・ 自然治癒力・セルフケア・生活習慣の改変

● 看護がこれまで追求し掲げてきた理念と一致

National Center for
Complementary and
Alternative Medicine
（1998）

NCCAM is now

NCCIH

National Center for
Complemetary and
Integrative Health
(2016.2.26)

健康長寿社会を創造する方向性

医療と介護・福祉サービス一体となった新たなケアシステム

全人的統合医療の理念に基づく健康創造

ライフスタイルと患者の全体性を重視する統合医療のアプローチが病気の予防と健康、ウエルネスの増進に効果的（ A. Weil)

持続可能な医療サービス

医療サービスが崩壊することなく提供され、必要なときに高価なハイテク医療も行うことが可能であるための新しい医療体系が求められている（IMJ）

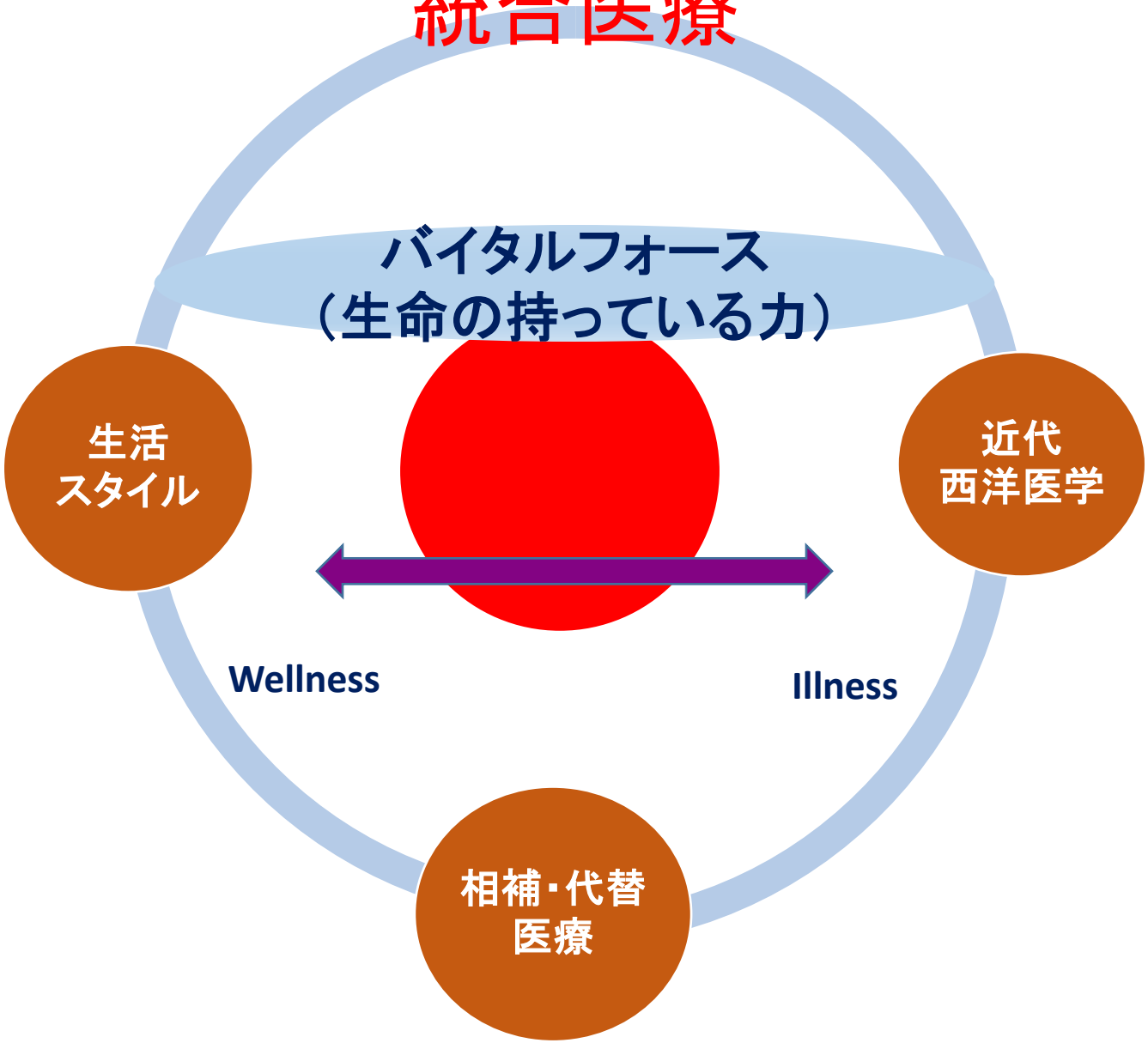
看護の優位性：自然治癒力を高めるケア

川嶋みどり

- 安楽を図るケア⇒副交感神経優位のケア
  気持ちよく・リラックス・ゆったり
  医療の中の看護の優位性もそこにある
- その神髄は生活行動援助にあり

3要素：「そばにいる」「聴く」「触れる」
その人の文化を尊重した個別ケアの規則性
生命を維持する日常的・習慣的ケアの価値

統合医療



統合医療　女性の会冊子（2016）参考

実践・教育・研究からの学び

IMJ2018in北海道　猪股千代子

実践・研究の実際

- 2008年5月から実践開始
- 北海道難病連・難病センター（札幌市中央区）
- 全人的に患者を捉え患者のQOL(quality of life)向上をめざす
- パーキンソン病・リウマチ病・脊髄小脳変性症；神経難病患者
- 医師、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、患者支援団体、音楽療法士らの専門職ケアチーム
- 「多職種協同健康増進プログラム開発」；音楽・アロマ・ヨーガを活用したリハビリテーションケア

ハマナス音楽＆看護療法研究会（HOKT123研究会：以下、本会）の理念

ミッション（目的：使命）

- 人を大切に敬う心を伴った多職種協同による全人的統合医療ケアリングを提供します

ビジョン（展望：社会的責任）

- 五感へ働きかける癒しケアによって、精神の浄化をもたらし、信頼関係を築き、人々と響きあい・繋がり、安寧な健康状態をもたらすことを社会に発信します

ヴァリュー（価値：強味）

- 認知・否定的な感情につながる思考習慣に対するアプローチ
- 異分野との融合による審美的・意図的看護ケアの提供
- 人間の健康の奥深さと拡がりを探求する支援

チーム医療としての統合医療ケアの実践・研究

ニーズ・生活様式に適った施術・セッション・癒し

要望・感動

代替療法士

クライエント/生活者

・健康情報提供
・プログラム作りの支援
・アウトカム検証法の共有

パートナーシップヒーリング

新たな健康増進法
:思いやり・気遣い
・癒し
・実践知の見える化

安心・希望

・生活者を全人的に捉えるアセスメント
・誠実な対応
・積極的傾聴（共感）
・フィードバック
・生活者同士のつながりを、コーディネート
・安心と信頼
・癒しの場の提供

医師・看護師/医療職

安心・科学的・ケアリング・ヒーリングの場の生成

得られたアウトカム

ニーズ・生活様式に適った施術・セッション・癒し

要望・感動

代替療法士

クライエント/生活者

・健康情報提供
・プログラム作りの支援
・アウトカム検証法の共有

パートナーシップヒーリング

・新たな健康増進法
・思いやり・気遣い
・癒し
・実践知の見える化

安心・希望

・患者を全人的に捉えるアセスメント
・誠実な対応
・積極的傾聴（共感）
・フィードバック
・患者同士のつながりをコーディネート
・安心と信頼
・癒しの場の提供

医師・看護師/医療職

安心・科学的・ケアリング・ヒーリングの場の生成

日本統合医療学会
気仙沼カントリークラブ・ボランティア概要

Ver1.0版

23年6月15日作成

日本統合医療学会東北支部

HOKT123研究会　2011.6.18-19ボランテイア方針

- HOKT123研究会は、気仙沼地区被災者の全人的健康を回復・増進するとりくみを6/18（土）から以下のようにしてすすめてまいりたいと考えます。

基本方針1.「すべての介入は住民の全面的な同意のもとで行う」
2.「住民主体の音楽療法を行う」

1. 対象者さんの意向・ニーズを尋ねる**(説明と同意）**
2. 健康状態を確認させていただく**（疾病の早期発見）**
3. 対象者により添い、孤独感、心の痛み、抑うつなどの状態から少しでもよくなる方法を対象者とともに考える**(寄り添い/パートナーシップ）**
4. 対象者がある程度、感情を表出できたら、音楽セッションなどのCAMを勧める。傾聴と寄り添いが基本的態度である**(ケアリング・治癒をもたらす環境づくり）**
5. 状況に応じて個人セッションをする必要があるかもしれない。対象者の状況、あるいは社会的つながりが構築されていれば、グループセッションもとりいれる
6. 音楽療法のコーデイネートのみならず、ヨガ、鍼灸、アロマセラピーの効用など、情報提供をしながらチーム医療のコーデイネートを行う**(連携/チーム医療）**
7. 今後対象者が継続して統合医療を受けることを想定し、各CAM代表者との合同作業を行い、全人的健康を評価する記録シートを作成する**（アセスメントと評価）**

持参品

- 血圧計4台
- 健康確認シート
- HAD調査
- ニーズ調査
- 楽器：小楽器、ピアノ系、楽譜系・歌詞カード・画鋲・セロテープ・延長コード・ヘリウムガス・ゴム風船・木綿糸・はさみ・マジック・筆記用具・ツリーチャイム・ギロ・お手玉・トーンチャイム
- 日記帳・連絡帳
- 食品・アルコール・フルーツ
- 洗面用具
- ボランテイア保険証
- 健康保険証
- パンフレット（HOKT123）
- ビデオまたはデジタルカメラ
- お土産
- クーラーバック
- マスク・透明マスク
- 名刺
- プログラム
- その他

HOKT123ボランテイア活動自己評価表　　3段階評価
3：行えた、2：だいたい行えた、1：行えなかった、0：その他

原則「すべての介入を患者を中心に患者の全面的な同意のもとで行う」

1．対象者さんの意向・ニーズを尋ねる(説明と同意）（　　）

2．健康状態を確認させていただく（早期発見）　（　　）

3．対象者により添い、孤独感、心の痛み、抑うつなどの状態から少しでもよくなる方法を対象者とともに考える(パートナー）　（　　）

4．対象者がある程度、感情を表出できたら、音楽セッションなどのCAMを勧める。傾聴と寄り添いが基本的態度である(ケアリング・治癒をもたらす環境づくり）　（　　）

5．状況に応じて個人セッションをする必要があるかもしれない。対象者の状況、あるいは社会的つながりが構築されていれば、グループセッションもとりいれる　（　　）

6．音楽療法のコーデイネートのみならず、ヨガ、鍼灸、アロマセラピーの効用など、情報提供をしながらチーム医療のコーデイネートを行う(チーム医療の連携）　（　　）

7．今後対象者が継続して統合医療を受けることを想定し、各CAM代表者との合同作業を行い、全人的健康を評価する記録シートを作成する（アセスメントと評価）　（　　）

概　要

- 場所１：気仙沼カントリークラブ　２階レストラン

  〒988-0225宮城県気仙沼市長磯大窪152-38
  TEL：0226-27-3150（カントリークラブ）
  ：090-4558-5059（千葉理事長様）

- 場所２：気仙沼市立階上中学校　体育館避難所

  〒988-0238宮城県気仙沼市長磯中原１２５
  ＴＥＬ：0226-27-2304
  避難所直通電話：090-4625-1682（避難所管理事務所直通）

- 訪問日：平成23年6月17（金）13時～19日（日）12時

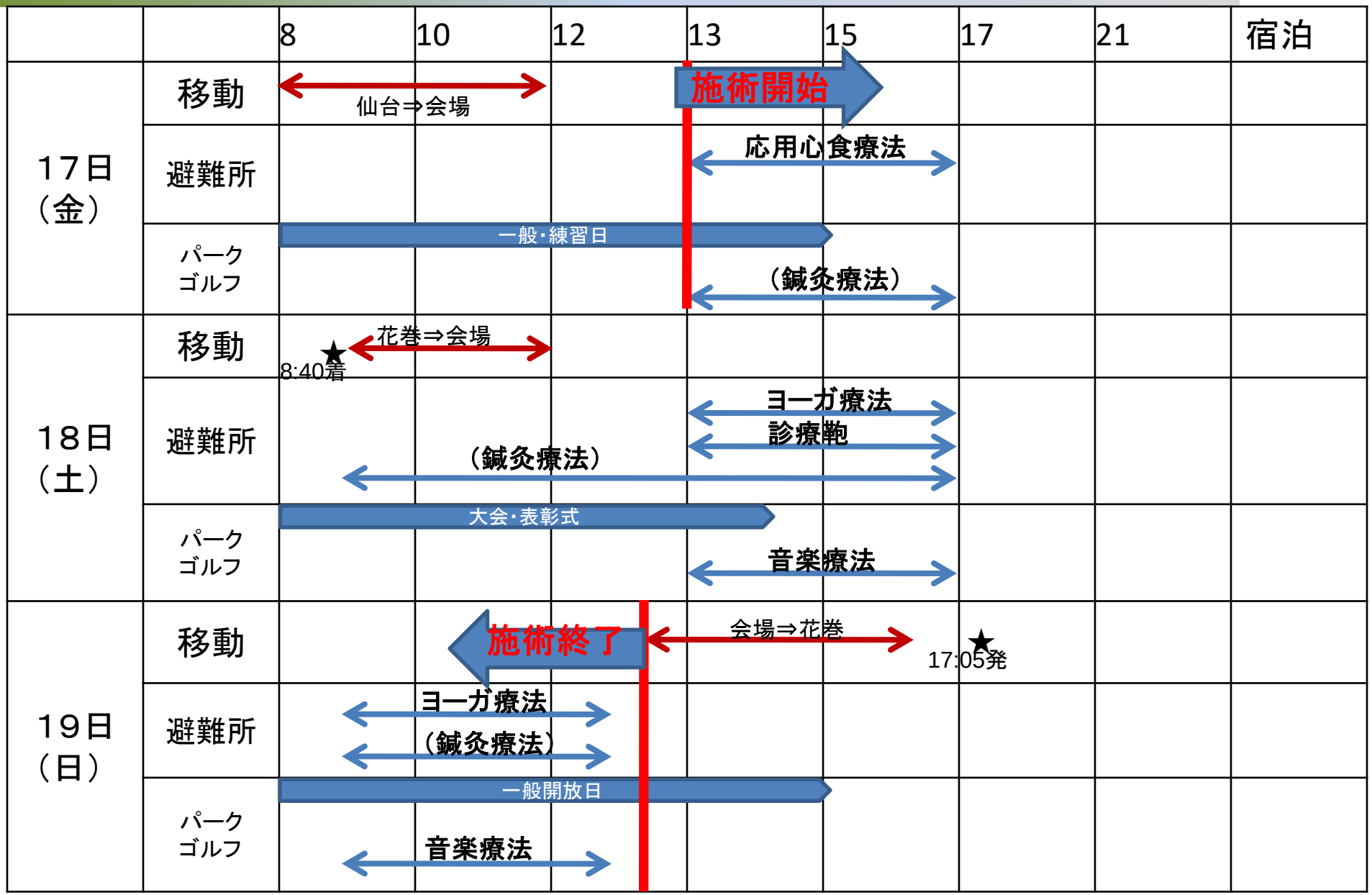
- 緊急連絡先：090－8780－3099（仁田先生）
  080－2803－0230（飯塚さん）

ボランティア概要

- 場　所：気仙沼カントリークラブ
- 施術日：平成２３年６月１７（金）～１９日（日）
- 医師　　：仁田先生
- 看護師　　：看護部会（＊末永先生）
- 施術療法　　：音楽療法（猪股先生）
  　　：ヨーガ療法（佐藤美弥子さん）
  　　：応用心食セラピー（庄子・國永・佐藤さん）
  　　：鍼灸療法（＊樋口会長）
  　　：遠隔診療（吉澤先生・ソニー）

・運転手、記録係　　：事務局（飯塚）

ボランティア実施日程（案）



地図

ルート・乗換案内 | マイマップ
共同編集 インポート
完了
保存済み
タイトル
無題
説明
プライバシー設定と共有設定 詳細
一般公開 - すべてのユーザーと共有されます。この地図は検索結果やユーザー プロフィールに表示されます。
限定公開 (URL で共有) - この地図の URL (アドレス) を知っている人だけが地図にアクセスできます。
施術場所1
施術場所2
Google Earth で表示
長磯後沢
長磯大窪
おやま製作所
長磯鳥子沢
長磯前林
長磯船原
気仙沼CC
本吉町菖蒲沢
宮城十條林産
長磯赤貝
長磯原ノ沢
長磯中原
陸前階上
市役出張所
本吉町石川原
長磯牧通
200 m
1000 フィート
©2011 Google - 地図
施術場所1
気仙沼カントリークラブ
施術場所2
階上中学校体育館

現地写真（階上中学校体育館）

・　統合医療学会の被災地救援活動2011年　6/18･19

気仙沼･石巻･岩沼

○長期間に渡る心の傷害

生命力･自然治癒力が低下している健康状態

⇒予防･健康増進のケアが必要

傾聴･手当て･五感へのケア

被災地活動のまとめ

傾聴・
手当て・
五感へのケア

安心の場

笑う・気持ち良い

喜ぶ・楽しむ

泣く・感激する

日常の感覚
取り戻す

人と人が
つながり

ねぎらいや
気遣い

住む人の力
の活用

**その人が
癒える場**

**保有する
潜在能力
に気づく・
変化できる
自分の力
に気づく**

2011年

神経難病クライエントに対する心理・社会的側面に焦点を当てた全人的ケアの内容

- 看護師1名・音楽療法士1名・事務局員1名・クライエント3名
- インタビューによる質的記述的研究

「神経難病クライエントに対する心理・社会的側面に焦点をあてた全人的ケアに関する考察
―ジーン・ワトソンのケアリング理論に基づいて」

松井千紘、他

札幌医科大学保健医療学部看護学科卒業研究集録集、2011

参加者の語り

- 動作がよくなった
- すくみがよくなった
- 歌ってリズムをとると足が軽くなる
- リハビリの一つとして考えている
- 気持ちがほぐれる・つらいことを忘れられる
- 楽しいし明るくなる・明るい気持ちがその日寝るまで続く
- 来た時よりかえるときのほうが気持ちがハイになる
- 癒し効果があるんだよね・歌を歌ったり・・
- 体の面より気持ちの面での期待大きいこの病気って気分的なとこがあるので少しでも良くなったらいいかなって思う
- 友人ができ情報交換ができるようになった
- 何かあってもNSがいるから安心・見守ってもらっている

参加者の変化

⇒社会的・精神的健康が回復
⇒スピリチュアルがたくましく・・・・

- 感動やカタルシスによって、心が開かれ、自分の思考・感情・態度のパターンを知るきっかけとなり
- 思考の習慣に気づくことで、別の思考と入れ替えることができるようになり
- ポジティブな思考パターンを選択し、養生法を身につけていくことで、内外から癒され
- 苦悩の意味・生命・愛の尊さを自覚して生きられる自己に変容

ケア提供者が行っていた内容

1. 思いやりを持って他者のために自分のできることをする
2. クライエントに寄り添う
3. 気づきを促す：意識を成長・拡張させる
4. 愛のある関係を築く
5. 感情表出を支える
6. クライエントが求める援助・関心ある援助を行う
7. 相手のために自分の養生法・経験を伝える
8. 癒える環境を創っていく
9. ニーズを満たす
10. 対話を通して、苦悩の意味・生きられた物語共有するケア⇒自然・宇宙の力への尊崇の念/スピリチュアルなケア

“J．ワトソン”のケア因子と類似の内容⇒
寄り添う看護師の佇まいのありよう

健康長寿社会を実現する統合医療ポジティブ看護

自然治癒力を惹起させる七感に働きかける未来看護の潮流

札幌市立大学　健和会臨床科学研究所　新潟青陵大学
聖泉大学　森ノ宮医療大学　京都学園大学　京都橘大学

地域包括ケア時代に対応する全人的統合医療の理念を織り込んだ新たな看護の提案

統合医療看護

第35回日本看護科学学会学術集会(広島)交流集会

2015年　12/5(土)15:30-16:20　広島国際会議場　第5会場(B2F ラン1)

猪股千代子
札幌市立大学　看護学部
日本統合医療学会理事

2016年度　S大学医学部1年生「死生学」授業

講義後レポート（100名）からの抜粋

- 医師は最後まで患者さんと向き合っていく必要がある
- 心のケアは発展し続ける
- スピリチュアルヘルス：体と異なる次元の心の奥深い部分の健康を目指すこと
- 医学部1年生のときに統合医療について聴くことができて有難かった
- 統合医療では、包括的に病院でケアを提供できるので大きな意味がある
- エビデンスとナラティヴが、二律背反するものとは思えない
- 心のケアを学び、ケアのプロフェッショナルになれるよう努力していきたい
- 患者と家族にとって、心身ともに癒すことのできる優しい医療だ
- 医師が行うべきことは対話
- チーム医療のリーダーとして医師は最も患者さんの事を考える人間でありたい
- ライフヒストリー（自分の今までの人生をまとめて話す）という方法もある

統合医療の考えを普及させる戦略や方法

- 医療制度などの法整備・医師の教育カリキュラムを製作する
- 医師の意識改革、倫理観を形成する
- 医学部生に対して、統合医療・地域医療の講義や説明会
- CAMなどを含めたチーム医療を形成
- 自分の心のセルフケアの重要性を理解する
- 統合医療ということばを一般の人にもわかりやすく定義する必要
- メデイアを活用
- 保険適用化
- 全国規模でのデータ採集
- 治療法を探すための情報の収集・発信
- 統合医療を相談できる場所作り
- 患者と医療従事者の間のネットワーク作り
- 診断に基づいて統合医療を受けることができる施設を近くに置く
- 混合診療の解禁を目指す
- 予防医療や精神療法など、ある疾患について発生する医療費を包括的に管理する戦略

2018年度　S大学看護学部生
現代専門職論「統合医療看護の探求」授業の感想から

- 生活者としての人間よりも、疾患や症状がメインとなって考えてしまう傾向になっていたが患者主体・生活者としての人間を支える看護の重要性に改めて気付かされた
- 臨床の場で培った自らの経験を基に感じた疑問や気付きを放置せず向き合うことは、新たな考え方と出会い、様々な価値観と触れる契機となることを知った
- 私の生活とヨーガは相互に影響し、自分を見つめなおす機会になっている。ヨーガを通し、自分の感情や行動、自分の気持ちをまとめ振り返ることで自分らしさを見つめなおし、どうしたら笑顔で自分を大切になれるのか探し続けていく
- 世界のあらゆることを見て、体験し、多職種交流をするなどをして、様々な面から看護を考えていきたい
- 対象者を、様々な職種で支えるということは、第1次予防から第3次予防までの全ての　段階において充実したケアを提供できるということ
- 統合医療ケアは、生活支援型となった現代の医療に必要とされていることがわかった
- 自分自身の傾向や思考パターンをセルフモニタリングし、ストレスをマネジメントすることも仕事の一つだとわかった
- 未来型医療のコンダクターとなる看護師が一人でも多くなるように、大学・大学院での教育が大切

全人的統合医療看護の特徴
（以下、“全人的”を省略する場合がある）

統合医療の看護：慈しみの看護の構成要素

日本統合医療学会誌Vol.7 No.2 2014

- 人間的かつ利他的な価値観
- 希望の提案
- 感性・感受性を磨く
- 援助・信頼関係
- 感情の促進と受容
- 創造的に課題に向き合う
- 人間愛・ケアリングに基づく真の教育・学習関係（気づきを促す）
- 治癒力が高まる療養環境の整備・支援
- 心をこめたてあてによるニーズへ支援
- 人間力の強化；悲しみ・苦しみを、生きる力に変えて実存できることを対話を通した支援/スピリチュアルケア

【J.ワトソンの10のケア因子】

- 人間的-利他的な価値観
- 信仰-希望を持てるようにする
- 自分自身と他者への感受性を磨く
- 助けること-信頼、ヒューマンケアの関係
- プラスの感情もマイナスの感情も表出する
- 創造的な問題解決のケアリングプロセス
- トランスパーソナルな教育-学習
- 支援的・保護的・修正的な：精神的・身体的・社会的・スピリチュアルな環境
- ニーズの支援
- 実存的-現象学的-スピリチュアルな力⇒　代替不可能性・各自生・一回性の実存的存在としての人間

2014年　全人的統合医療看護ケアの特徴
日本統合医療学会誌Vol.7 No.2 2014

第1段階　感情や思考のパターンの気付きへの支援

- 否定的な感情につながる思考習慣に気付くと、別の思考と入れ替える事ができる

第２段階　アートフルケア（TE-ARTE)・多様なケアの提供　（西洋医学とCAM・TM・芸術・自然等の融合）

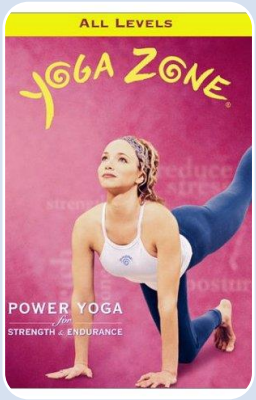
- 「病気になりにくい自分」「病気になっても治りやすい自分」を創り上げるための養生法の修得：健康法について多様で柔軟な考え方に出会い、意識的・意図的な努力と実践と外部からの支援によるケア

第３段階　スピリチュアリティの成長・意識の拡張への支援

- スピリチュアルケア/対話を通した苦悩の意味・生きられた物語共有するケア⇒自然・宇宙の力への尊崇の念　生命、愛の尊さを自覚しあらゆる存在とのつながりを実感、熟成・芳潤・老練の価値を伝えていくかかわり

統合医療看護の特徴

参考：ケアの中の癒やし　ルース・リンクイスト他　P15-



セルフケア　例証

寄り添い

傾　聴

●生活行動援助
●癒しのケア

至適環境創り
癒しの

統合医療看護の全体像（構造）

感情や思考のパターンの気付きへの支援 寄り添い/対話	感性・感受性を磨く	人間的、かつ利他的な価値観
	援助・信頼関係	
	感情の促進と受容	
	創造的に課題に向き合う	
アートフルケア（TE-ARTE）・多様なケアの提供 生活行動援助/対話	人間愛・ケアリングに基づく真の教育・学習関係	
	治癒力が高まる療養環境の整備・支援	
	心をこめたてあてによるニーズへ支援	
スピリチュアリティの成長・意識の拡張への支援 傾聴/対話	希望の提案	
	人間力の強化；悲しみ・苦しみを、生きる力に変えて実存できることを 対話を通した支援/スピリチュアルケア	

人の中に自然を見る看護ケア

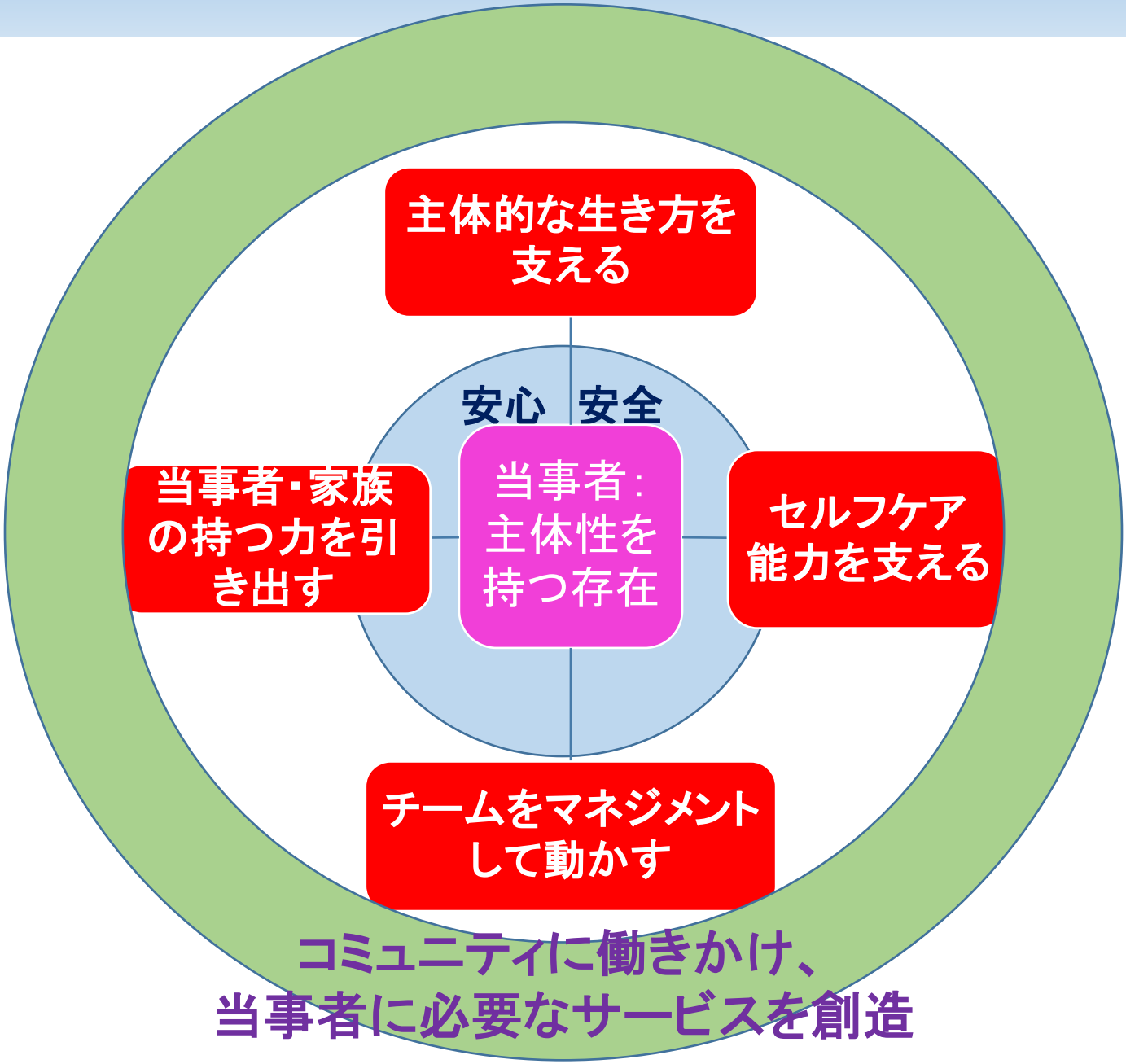
スピリット—精神・心のひだ・魂にとどく看護ケア例

エビデンスとナラティブに基づいた医療とケア

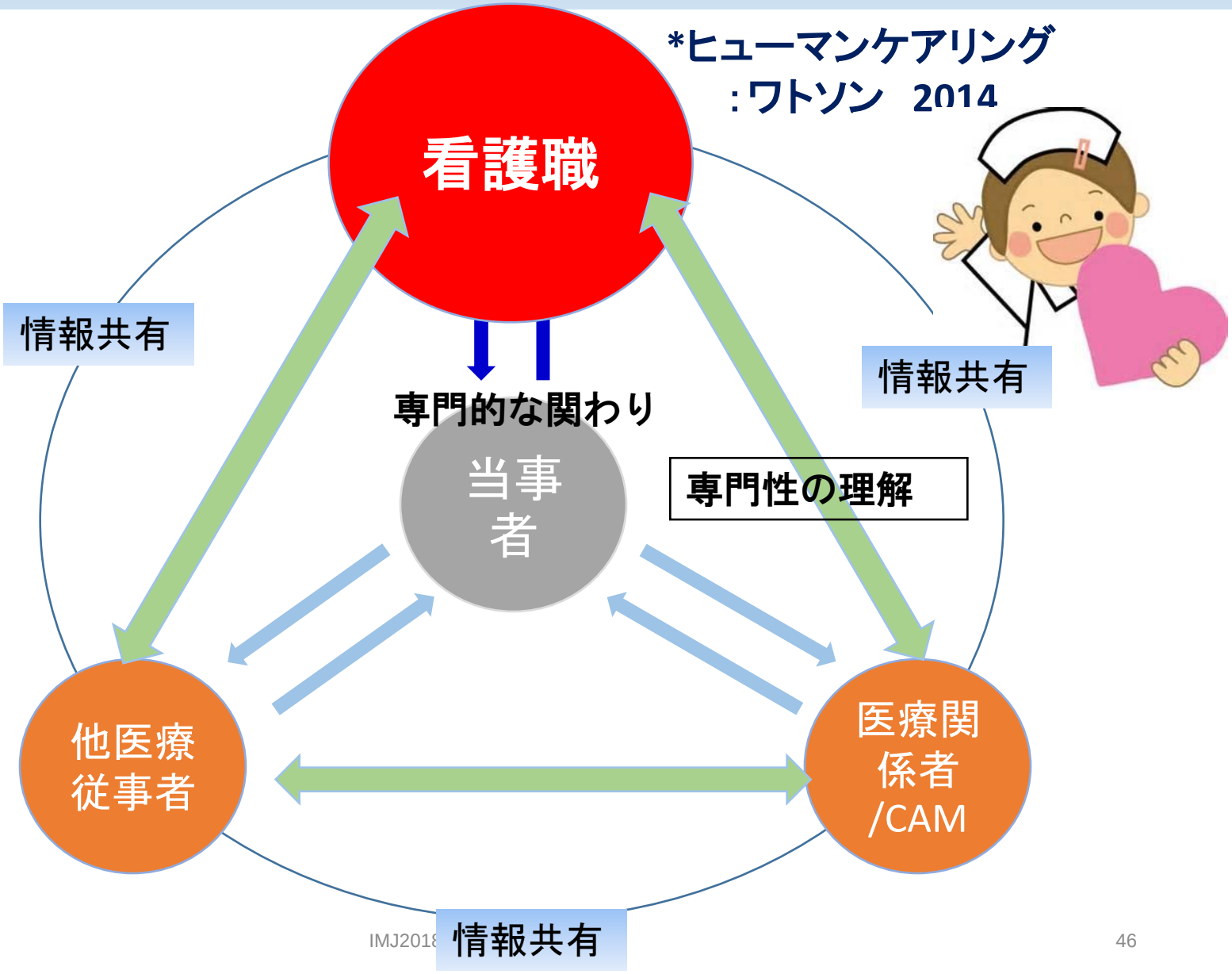
- その人が望むような、良い人生（物語られるいのち）を生きることができるように身体状況（生物学的生命）を調える
- 人は自分の生き方ややりたいことをどうするかの方がより大事な問題である
- その人にとって適切な方針決定のためには、その人の物語られるいのち（生活・人生）にどうかかわるかがカギ
- 本人・家族と医療スタッフ間のコミュニケーションのプロセスを通して「（本人にとって最善の判断をするために）一緒に考え悩むことが意思決定の倫理的妥当性を担保することになる
- 患者の生きた物語（ナラティブ）にどれだけ関心を向けることができるか
- それが医療の質を決めることにもなる

地域包括ケアに
全人的統合医療の活用

生活と医療の統合⇔当事者/家族の自立した生活の継続



当事者の生活支援に向けた
ヒューマンケアリングチームを統合するという看護職の機能



未病・予防・健康マネジメントセンター　構想
（全人的統合医療ケアリング・ヒーリング提供）

（IMJ:川嶋を改編）

ミッション（目的：使命）

- 高度医療、急性期医療では健康の幅を広げられない疾患や対象者に、全人的・患者中心・自然治癒力・予防を中核理念として医薬品や医療機器依存に頼らない、統合医療/ケアリングと癒しの療法を用います
- 医療機関との連携は救命救急時に限って行います

ビジョン（展望：社会的責任）

- 災害時のケア・こころのケア：実践・教育・研究の拠点を目指します
- 健康問題別各種ヘルスケアナビゲーターを育成します
- スピリチュアルヘルス・コミュニティ形成のプラットホームの役割を果たします

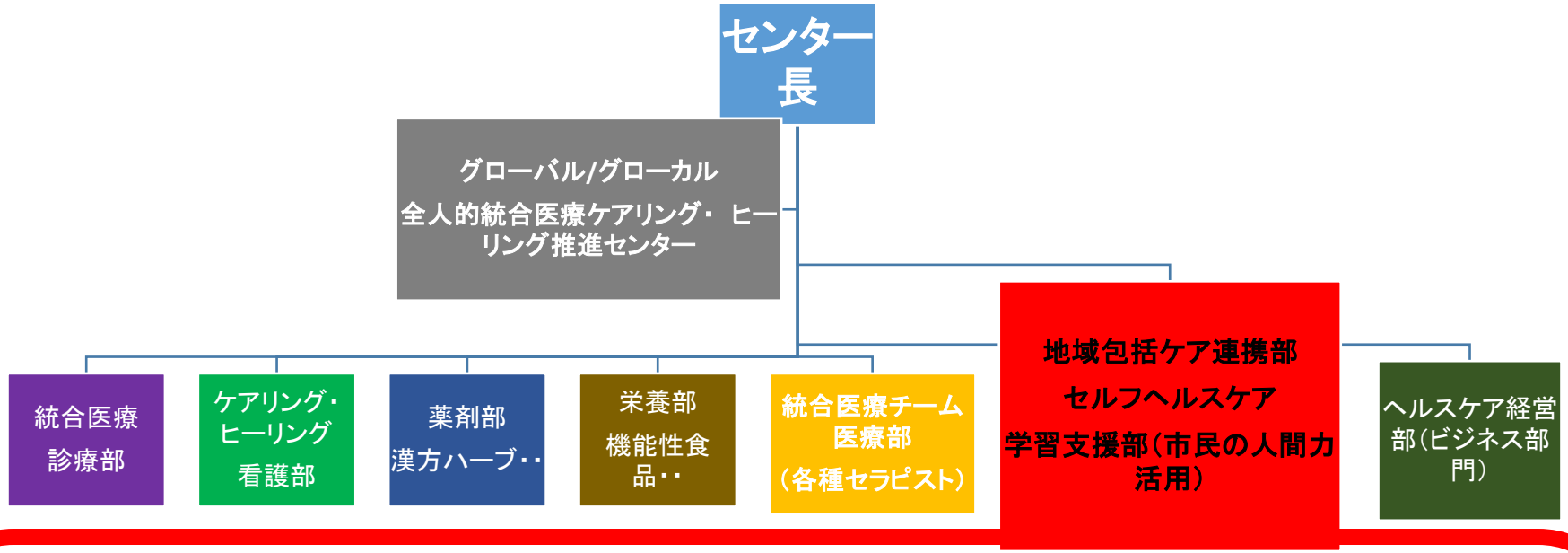
ヴァリュー（価値：強味）

- 日常生活行動援助・生活習慣の改善、セルフケア能力の動機づけの実践・学習を行います
- 各種補完代替療法を養生法として修得し、苦痛なく自己の自然治癒力と免疫力を高めることを支援します

理論的・実践的背景

- 世界統合医療学会・日本統合医療学会・日本看護系学会協議会傘下の学会・看護系大学268大学院修了生・認定看護師・専門看護師・CAM各領域セラピスト

地域包括ケアシステムにおける未病・予防・健康マネジメントセンター



自然治癒力を高め、老いても病であっても自分らしく生きることを支援する、人材育成拠点

- セルフヘルスケア重視：　健康問題別チーム医療へ
- 1.心とからだの調和を生むケア学習　2.介護予防に関する学習

健康長寿のコミュニテイヘルスづくり

- 自然、伝統芸術、まちづくり、体験学習　スピリチュアルヘルスケア・コミュニティ形成

災害時のケア・こころのケア：実践・教育・研究の拠点

全人的統合医療ケアリング・ヒーリング提供のセルフヘルスケア支援フロー

	セルフヘルスケア（SHC)支援プログラム	自宅で行う セルフヘルスケアの支援
入院	1.入院時スクリーニングシート入力 **認知・感情・行動パターンを知る：ヨーガ・・** ・SHC支援が必要な当事者は病棟へ情報提供 ・SHC支援が必要な患者を抽出する	**・自己のパターンにきづく** **・在宅での生活の状況確認、趣味や関心、どのように生きたいかの対話**
入院初期	2.入院初期カンファレンス実施 目的：SHC支援の必要性再検討 参加者：**当事者・家族・看護師・IMチームメンバー** **・SHCのための養生法を選択** 3.SHC計画作成入力	**・当事者が望む健康のイメージ共有**
入院中	4.院内カンファレンス実施 目的：当事者/家族と医療者のコンコーダンス（意見の一致）の確認 5. **IMケアチームによる多元的ケア：対話**	**・統合医療医師の治療方針、当事者と家族の意向の確認** **・当事者の持つ力（興味・関心）を活かした癒しケア介入と対話**
退院前	6.退院前カンファレンス実施 目的：支援体制の課題と調整 参加者：**コミュニテイのIMチーム　福祉職** 7.**地域・コミュニテイの中でのセルフケア・社会参加**	**・継続する癒しケアと生活援助に関する情報提供**
退院	「潔く優雅に・生きる・意識の拡張（気づき）ノート＝ポジテイブシンキング・ノート」 の推奨	**ポジテイブ・シンキングの獲得**

全人的統合医療看護

感情や思考パターンへの気づきへの支援
サイエンス＆アートフルな多様なケアの提供・デザイン
対話を通したスピリチュアリティの成長への支援

多様な看護ケアをクライエントに提供可能

“癒し”を目指すチーム医療実践で得られる
無限の創造的解決能力

新たな看護人材育成の提案

未来型医療としての統合医療の新しい展開

国民の役割：健康状態の把握

健　康
ゾーン

未　病
ゾーン

罹　病
ゾーン

医療関係者の役割

a)医師・看護師などの医療従事者

b)柔整・鍼灸・マッサージなどの
国家有資格者

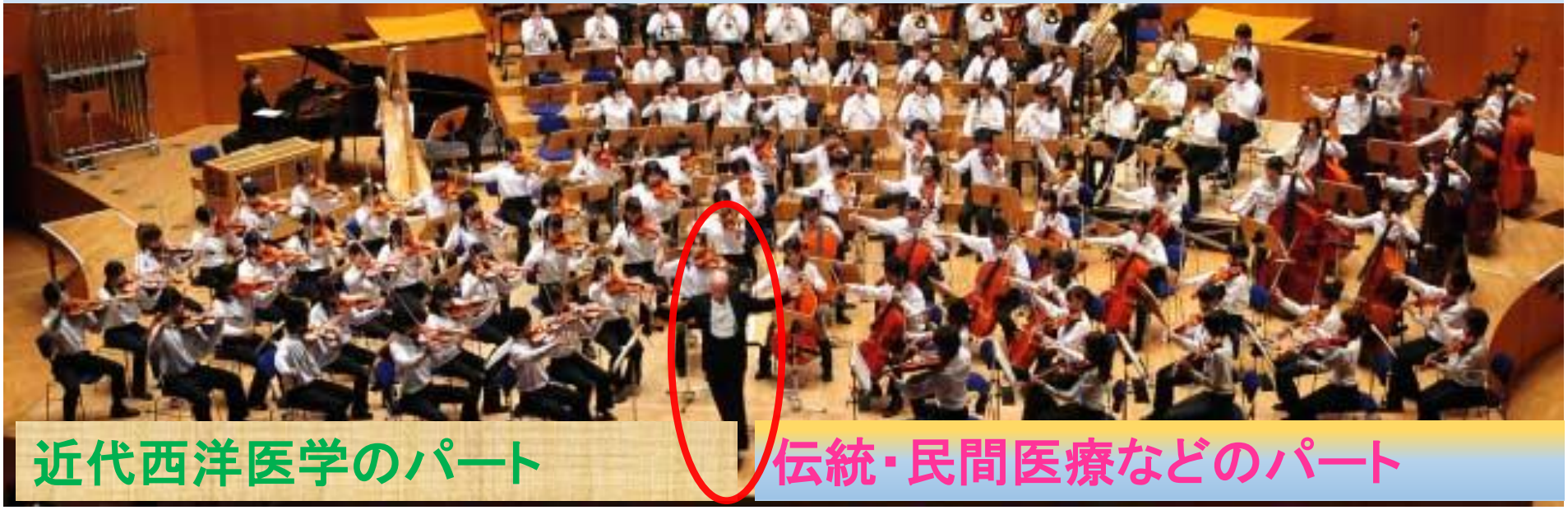
c)ヨーガ・アロマ・音楽療法・ホメオパシー・
カイロ・サプリメント・ハーブ・薬膳など

一般市民（財界・政界・産業界も含む）

（IMJ仁田）

日本の未来型医療としての統合医療

⇒看護の新しい展開⇒未来看護



統合医療のコンダクター候補者

A：医師・**看護師**などの医療従事者

B：柔整・鍼灸・マッサージなどの国家有資格者

C：ヨーガ・アロマ・音楽療法・ホメオパシー
・カイロ・サプリメント・ハーブ・薬膳など

全人的統合医療ケアリングヒーリングの2本柱

全人教育：ケアリング教育

教育

ケアリング社会

ケアリング社会/エコ社会

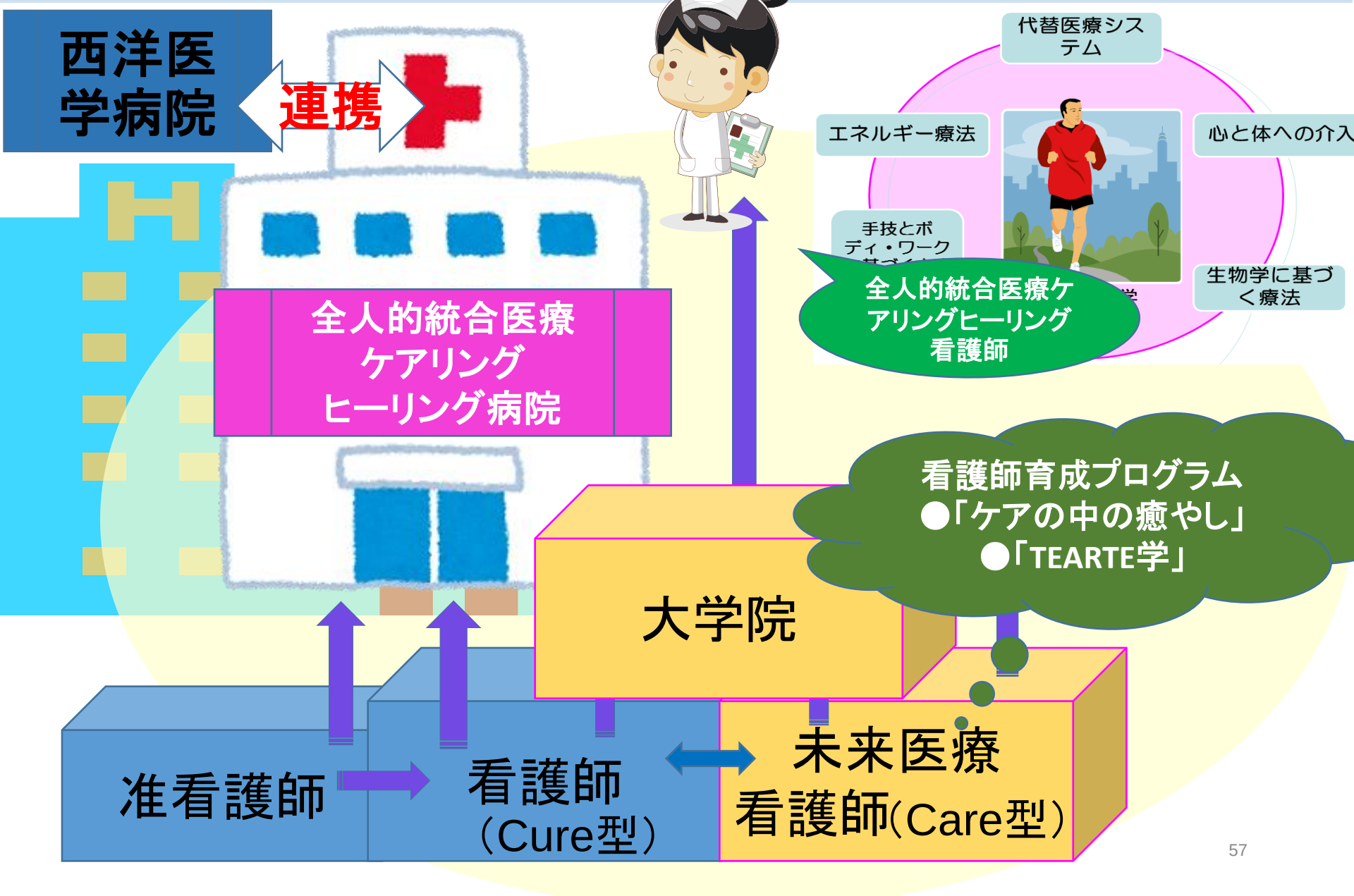
日本の未来型医療に向けた新しい看護体系の創生と発信（IMJ:仁田）

こころに寄り添える能力を備えた、ケアを主とする看護師の育成（ナイチンゲールの精神）

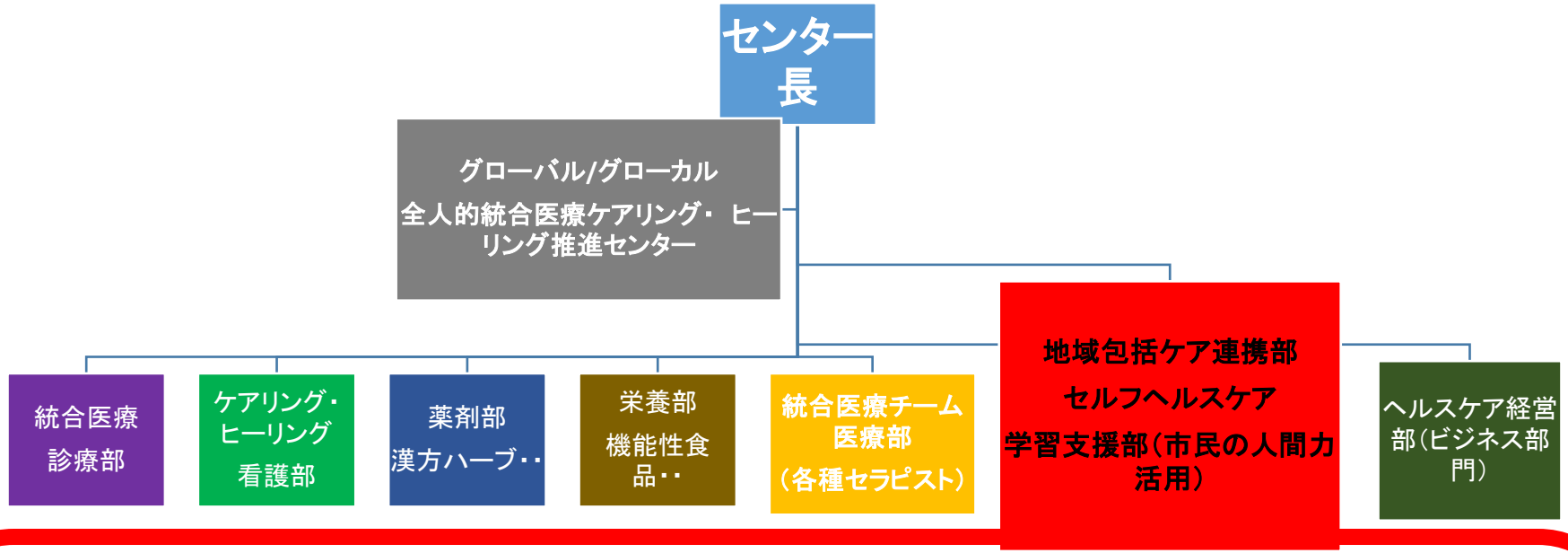
・近代西洋医学にさらに伝統医学・相補代替療法などを包括した教育カリキュラムを作り実践する
・従来のキュア型と異なった、新しい看護領域となり看護師の志望の増加を図る

看護師の新たな教育システム

（IMJ:仁田を改編）



地域包括ケアシステムにおける未病・予防・健康マネジメントセンター



自然治癒力を高め、老いても病であっても自分らしく生きることを支援する、人材育成拠点

- セルフヘルスケア重視：　健康問題別チーム医療へ
- 1.心とからだの調和を生むケア学習　2.介護予防に関する学習

健康長寿のコミュニテイヘルスづくり

- 自然、伝統芸術、まちづくり、体験学習　スピリチュアルヘルスケア・コミュニティ形成

災害時のケア・こころのケア：実践・教育・研究の拠点

結　び

「統合医療」で発展する未来の看護

- 病気は人間の生活の仕方に影響されて起きる自然の回復過程⇒自然治癒力が発揮されるよう生活過程を整える⇒生活行動援助と心地よさを与えるケア（川嶋）
- 健康問題に関連する生活者の精神的・社会文化的・環境的・宗教的な側面をも考慮し、生活者の家族や地域社会にも目を向ける⇒生活者の生活全体を視野にいれ、社会生活上の問題点を整理して多様な生活・健康指導、精神的サポートを行う⇒全人的統合医療ケア

看護へのエール

- 日野原重明先生

　これからの看護は医療をも包含するケアという大きな傘のもとで、ケア全体をその最前線で牽引していくことを求められています。

　医療中心から看護主体のケアへ変わるべき時を迎えて、すべての看護職者が機動性に富んだ判断と行動を示していかれることを、看護を敬愛する者として強く願います。

- 仁田新一先生

　患者さんの最も近くで病む心と身体に寄り添って、生きる勇気を引き出すケアのスペシャリスト看護職者に、統合医療のコンダクターとして未来型チーム医療の効果というハーモニーを、市民の皆様に届けてほしいと願います。

ケアリング理論を
全人的統合医療論構築の基盤に

- ケアを与える人と受ける人が一緒になって1つの事象を作り上げることで、生活者の自己治癒が進むばかりでなく、看護師（療法士）も自身の人間性を深めていく

（ワトソン）

- ⇒統合医療の探求の旅の途中で
一貫して認められる実存的・現象

生きる価値や生きられる選択肢について対話を通して

ともに　辿るという医療観

ニューマンの「看護」の提言を超えて

- 統合医療と看護はヘルスケアが継続して発展していく ための重要な資源になりうる。 ヘルスケア産業の焦点が交わるところに位置しており、だからこそ統合医療と看護はシステムのなかにあって、そのシステムを 新しくより高い機能の秩序へと押し上げるうねりを引きこす立場にある。

- **21世紀の統合医療⇒多様な健康増進法を活用して症状をマネジメントしていく⇒人間健康**科学の**未来**を切り拓くポテンシャルを有している

⇒ **Diversity Health care Science**

これまで多くの方に支えられてきました。
心から感謝を申し上げます。

宮城大学時代

佐治　順子様

札幌医科大学時代

仲田みぎわ様

北海道難病連

小田　隆　様

HOKT123

山本　由佳　様

下出理恵子　様

北構　小瑞　様

村上　秀子　様

田上　朱美　様

片桐　雅樹　様
桑原　司　　様
方波見　文雄様
西谷　雅史　様
笠井　正晴　様
宮本　篤　　様
陶　恵栄　　様
城　美奈子　様
西岡　純二　様
佐野　嘉彦　様
川村　直之　様
大村　和彦　様
後藤　雅博　様
神力　就子　様
勝部　光祈　様

札幌市立大学教職員の皆様

IMJの皆様

川嶋　みどり　様
木村　慧心　様
伊藤　壽記　様
遠藤　恵美子様

ご清聴ありがとうございました

文献

* 猪股千代子、佐治順子、高橋方子、川村武、仁田新一　パーキンソン病患者に対する音楽療法の効果―ケアリングの視点からの心の健康の定性的評価―　日本統合医療学会誌　1(1)2008　96-103
* 猪股千代子　佐治順子　音楽療法がパーキンソン病患者の健康状態に与える効果に関する評価研究―ケアリングの視点から作成アンケート調査を通して―　日本音楽療法学会誌8(2)2008年154-163
* 猪股千代子　看護職の立場での統合医療推進のストラテジー　－パーキンソン病患者への音楽療法が患者の健康状態に与える効果研究を通して考察する看護師の新たな役割－　日本統合医療学会誌1(2)2008年47-51
* 高橋方子、猪股千代子、佐治順子、西村亜希子、川村武、仁田新一　音楽療法の効果を高めるための音楽療法士のかかわり　宮城大学看護学紀要　12(1)　2009　31-41
* 猪股千代子　仲田みぎわ　地域で生活する神経難病患者への多職種協同健康増進プログラム開発モデルによるヘルスケアサポート実践　第30回日本看護科学学会学術集会　講演集　2010年　231
* 佐治順子、下出理恵子、北構小瑞、村上秀子、森元千恵子、猪股千代子、仁田新一　神経難病患者の音楽療法実践に関する研究　1. 他職種スタッフとの共同事業から見えてきた音楽療法実践法　（　　）
* 猪股千代子、小端裕美、仲田みぎわ、森元智恵子、里見弘子、下出理恵子、北構小瑞、村上弘子、山本由佳、小田隆、仁田新一　多職種協同健康増進プログラム「統合音楽療法」を受けている神経難病患者のQOLの推移　第14回日本統合医療学会学術集会抄録集（IMJ2010徳島大会）108
* Chiyoko Inomata　Shin'ichi Nitta　Nursing in Integrative Medicine and Nurses' Engagement in Caring-Healing: Discussion Based on the Practice and Study of Music Therapy and Nursing Care for Patients with Neurodegenerative Disorders（神経難病患者に対する「音楽＆看護療法」の実践・研究を通して考察する統合医療の看護　―ケアリングと癒しに看護職はどう関わるか―）　Technological Advancements in Biomedicine for Healthcare Applications. IGI Global. 2012 PP235-239
* アン・マリナー・トメイ，マーサ・レイラ・アリグッド　監訳　都留伸子　看護理論家とその業績第3版　マーガレットA.ニューマン健康のモデル　591-607　医学書院
* マーガレット・ニューマン　変容を生みだすナースの寄り添い　看護が創りだすちがい　医学書院
* アン・マリナー・トメイ，マーサ・レイラ・アリグッド　監訳　都留伸子　看護理論家とその業績第3版　ジーン・ワトソン　ケアリングの哲学と科学　152-165　医学書院
* ジーン　ワトソン　訳稲岡文明他　ワトソン看護論　人間科学とヒューマンケア　医学書院
* ジーン　ワトソン　訳川野雅資他　ワトソン21世紀の看護論ポストモダン看護とポストモダンを超えて　日本看護協会出版会
* ロレインM.ライト：癒しのための家族看護モデル，病いと苦悩,スピリチュアリティ，医学書院，2005
* Lyda Hill,Nancy Smith：SELF-CARE NURSING, Promotion of Health, APPLETON & LANGE,1990
* 窪寺俊之：スピリチュアルケア入門，三輪書房，2000
* 坂東浩：Dr.坂東の音楽療法シリーズ 入門編，メディカル情報サービス，2009
* 藤堂明保,松本昭,竹田晃他：漢字源 改訂第四版，学研，2006
* 尾崎真奈美,奥健夫：スピリチュアル・ヒーリング:その本来の意味，J.Intl.Soc.Life Info.Sci. 25(1):107-114,2007
* 窪寺俊之：魂の痛みへのケア-スピリチュアルケアとは，環境と健康，21(2):148-154,2008
* バーバラ・M・ドッシー：ホリステイックナーシング全人的な癒しへの看護アプローチ　エルゼビアアジャパン、2006
* 山本竜隆、他：統合医療とは何か？が、わかる本、ほんの木、2012
* 仁田新一　統合医療の今後の展望、日本ヨーガ療法学会研究総会In宮崎　講演資料、2013
* 統合医療、基礎と臨床；日本統合医療学会編